

平成 26 年度 第 1 回 十和田市病院事業経営審議会 議事録

日 時 : 平成 26 年 5 月 16 日 (金) 15:00 ~ 16:00

場 所 : 十和田市立中央病院 別館 2 階講堂

出席者 (委員) : 竹島勝昭、江渡信貴、小村初彦、今泉勝博、東秀夫、野月一博、小嶋泰彦、高橋俊介、伊藤博次、鳥越正美、古川あき

その他の出席者 : 松野事業管理者、丹野院長、富浦副院長、田澤副院長、工藤副院長、中居事務局長、小又看護局長、古川薬局長、須藤技師長、小澤技師長、古川技師長、清水技師長、斗賀医事課長、佐々木業務課長

次第 : 1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 病院事業管理者あいさつ

4. 病院長あいさつ

5. 議事

報告 1. 平成 26 年度病院事業会計予算について

報告 2. 平成 25 年度病院事業会計決算見込みについて

6. 閉会

佐々木業務課長	<p>私は本日の司会を務めます、業務課長の佐々木でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。それでは経営審議会の開会に先立ちまして、今回お配りした資料の確認をさせていただきます。お手元の資料として、「平成 26 年度第 1 回十和田市病院事業経営審議会 会議資料」、次第から 5 ページまででひと綴りとなっています。もし、資料の乱丁、落丁等ありましたら、手を挙げて申し出ただければと思いますが、ご確認をお願いいたします。</p> <p>本日、所用のため、工藤委員が欠席となります。</p> <p>只今より、平成 26 年度第 1 回十和田市病院事業経営審議会を開会いたします。議事に入る前に、竹島会長からご挨拶をお願いいたします。</p>
竹島会長	<p>本日はお忙しい中、ご出席賜り、誠にありがとうございます。この審議会は市議会議員及び学識経験者から構成されていますが、そもそも外部の人間が病院事業の経営について審議することの意義について考えてみますと、大きく分けて次の二つのことが挙げられると思います。</p> <p>一つは、病院内部だけで検討すると、視野が狭くなったり、身内びいきに陥ったりするなどの危険性を孕むことになり、病院の公共性や経営状態を考えると、より広い視野からの検討も必要である点です。</p> <p>もう一つは、中央病院は地域において、必要不可欠な医療の拠点であることから、その経営を病院職員にまかせっきりにするのではなく、地域住民も共に考え、協力できるところは協力をし、地域全体で中央病院を支えていくことが病院の持続可能性を高めることに繋がる点です。</p>

<p>佐々木業務課長</p>	<p>その意味で私ども病院事業経営審議会の果たすべき役割は重要であると考えます。</p> <p>本日の会議におきましては、議事として報告が2件ありますが、それ以外のことも含めまして、委員の皆様には、忌憚のないご意見、ご質問をいただきますとともに、松野事業管理者をはじめ病院側からも積極的な情報提供をしていただき、本会が実り多いものになりますよう、ご協力をお願い申し上げます、簡単ではございますが、一言挨拶とさせていただきます。</p> <p>続きまして、当院の事業管理者であります松野事業管理者より、ご挨拶申し上げます。</p>
<p>松野事業管理者</p>	<p>平成26年度第1回経営審議会の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>本日は委員の皆様には大変お忙しいところ、ご出席賜りまして本当にありがとうございます。また、日頃から当院の事業運営にご協力をいただきまして、厚く御礼申し上げます。</p> <p>今年度4月からの当院のニュースには、一つ目は初期研修が終わった研修医4名が全員残ることになったことです。なかなかこの規模の病院で研修医が全員残るといのは珍しいことです。マンパワーの力になってもらえるといいです。二つ目は消化器内科にドクターが増えて、病院の運営上にもかなりパワーを出せる状況になりました。三つ目はこれまでの懸案であった院内保育所がオープンしたことです。これから入所者が増えてくると思いますが、これも病院の運営、職場環境を良くするという意味では大変いいニュースだと思います。</p> <p>現状では、経営健全化につきまして、市からの繰出金に頼らざるを得ない状況ではありますが、今後とも市と一体となった取り組みを進め、市の財政に負担を掛けまいよう努めてまいりたいと考えております。</p> <p>申し上げるまでもなく、病院運営は委員の皆様はじめ、関連施設の先生方や暖かく見守って下さる市民の皆様のご支援がなければ成り立ちません。我々病院スタッフもその支援を糧として、日々業務に励み、改善に努めております。委員の皆様におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。簡単ではございますが挨拶といたします。</p>
<p>佐々木業務課長 丹野院長</p>	<p>続きまして、院長であります丹野病院長よりご挨拶申し上げます。</p> <p>私のほうからも一言ご挨拶申し上げます。日頃は当院の病院運営に関わりましてご協力いただきまして、本当にありがとうございます。</p> <p>私自身、ここに着任して2年が経ちました。その間、医療の質と健全経営の二つが病院運営の両輪であり、この二つがもっとバランスよくならなければ、なかなかうまく前には進まないと感じております。</p> <p>昨年の経営に関しては非常にいい経験をしました。昨年度前期は思うように医療収益が伸びず、このままいくと大幅な赤字になる状況でした。その時に職員一同と情報を共有し、それぞれ努力していただいた結果、後期はだいぶ持ち直して現金ベースで黒字となる見込みとなりました。これは、市からの支援もあったためですが、後期の状態であれば、何とか当院はやっていけるのではないかと。</p>

佐々木業務課長	<p>身も含めて病院職員全員が実感したことは非常に意味があったと思っています。今年度も前年度の後期のような状況を維持しながら、さらに発展させていきたいと思っておりますので、何卒今後ご指導、ご協力をお願いしたいと思っております。今日はお集まりいただき、ありがとうございます。</p> <p>続きまして、ここで本日出席しております病院の職員を紹介いたします。事業管理者の「松野」でございます。院長の「丹野」でございます。副院長の「工藤」でございます。同じく「田澤」でございます。同じく「富浦」でございます。看護局長の「小又」でございます。薬局長の「古川」でございます。放射線科技師長の「須藤」でございます。臨床検査科副科長の「小澤」でございます。栄養科技師長の「古川」でございます。リハビリテーション科技師長の「清水」でございます。事務局長の「中居」でございます。医事課長の「斗賀」でございます。最後にわたくし、業務課長の「佐々木」でございます。よろしく願いいたします。</p>
佐々木業務課長	<p>これより議事に移ります。</p>
竹島会長	<p>十和田市病院事業経営審議会条例第3条第2項の規定により、議長は会長が務めることとなっておりますので、会長よろしく願いいたします。</p>
竹島会長	<p>それでは、議事に入ります。</p> <p>「報告1 平成26年度病院事業会計予算」について事務局から説明をお願いいたします。</p>
佐々木業務課長	<p>入院収益は4,992,835千円、前年度より219,365千円の増となりました。積算については、入院患者数は前年度と同数、診療単価は25年度の状況を踏まえて設定しました。</p> <p>外来収益は前年度実績を踏まえて積算し、前年度と比べて60,000千円ほどの増収が図れると見込んだものです。</p> <p>一般会計からの繰入金は、当初予算と比較して291,543千円と大幅な増額です。25年度では3月補正で特別支援という形で市のほうから繰出し金を234,952千円をいただいています。最終的に、1,337,403千円を繰り入れしてもらっています。26年度では同じように特別支援が入っているので、実質は56,591千円の増です。今回、特別支援以外に5,600万ほど増えています。その要因には、繰入金の積算する際の繰出し基準があって、それに基づいて積算しているため、小児科医療、救急医療、院内保育関係などの補てん的なものを含めて5,600万ほど増額になります。</p> <p>医療情報システムの更新について、建設当時から運用してきた電子カルテシス</p>

竹島会長	<p>テムなどが、現在の業務内容に対応しきれていない状況にあります。システム機器が約6年経過し、更新の時期となっているため、整備する額として679,200千円を見込んでいます。</p> <p>医療機器の購入には、今年度167,400千円を見込んでいます。毎年度各科での要望を踏まえて、年数や使用頻度などを考慮した上で決定しています。建設当時の各種医療機器が更新時期を迎えています。できるだけ延命化を図りつつ、医療体制に支障がないように調整しています。医療機器の購入内容の内訳は表記しているの御覧になってください。</p> <p>企業債の借入額は846,600千円です。</p> <p>企業債元利償還金は、医療機器関係、病院建設関係、特例債関係によって発行したものです。前年度と比較すると償還額は7千万ほど増えています。</p> <p>ただ今の報告について、委員の皆さんから何かご質問、ご意見がありましたらご発言ください。</p>
野月委員	<p>25年度、当院は赤字でも決算は黒字だというのが、これには特別支援や色々な助成金など様々な問題が発生します。どのように考えて、今年度の予算を組んでいるのか伺いたいです。</p>
中居事務局長	<p>昨年度、市からの支援金が2億3,000万ほどの減、土地の売買が7千万ほどの減で実質3億円ほど減になっています。上半期の医業収支ではかなり赤字が見込まれるため、3月に2億3,500万円ほどの支援金をもらいました。</p> <p>今改革プランを基に経営改善に取り組んでいる病院です。仮に現金ベースで赤字になった場合、次年度以降の企業債を借り入れる国からの承諾が困難になります。そうなった場合、その分が病院の持ち出しになります。市からの繰入の対象にもならず、2年あたりで事業が回せなくなり、危機的状況になります。ですから、何とでも繰入の追加支援をお願いしたく、補正をしていただきました。26年度予算でも25年度同様に市のほうから繰出しをしていただくことになっています。100%です。これ以上の繰出しは困難です。こうした中で赤字を出すことはできません。病院職員一同、黒字に向けて頑張っていきたいと思います。</p>
野月委員	<p>26年度の予算編成はそういう中での予算を組んだと思いますので、これは後には引けません。</p>
丹野院長	<p>松野事業管理者は、26年度の予算編成についてどのようにお考えですか。</p> <p>私のほうからお答えします。</p> <p>昨年度全体の状況をみますと、後期の一般入院患者数が平均231人くらいで、かなり単価も高かったです。その現状を維持していけば、このくらいの予算でやっていけるだろうと判断しています。かつ、先ほど、事業管理者もおっしゃったように、医師のマンパワーが増えたことが、私としては非常に期待しているところです。病院全体として、25年度後期の状態を最低レベルだと考えて何とか維持していけば、この予算編成で赤字になることはないと思っています。</p>
野月委員	<p>ありがとうございました。</p>
鳥越委員	<p>25年度の「前期」と「後期」ではどういう違いがあったのか、なぜそういう違</p>

丹野院長	<p>いがあったのかわかりやすく教えていただきたいです。</p> <p>具体的に、前期は入院患者数が少なく、一般では平均 215 人くらいでしたが、後期では平均 231 人くらいで 15、6 人くらい増えました。この原因は、職員全体の意識、危機感の共有だけではなかなか説明は難しいです。23 年度が当院としては一番いい患者さんの数を確保していました。それから新人も入ったり、病院全職員の意識が少し薄れた面はあるのかもしれませんが。あとは、「十和田市立中央病院」の仕切りを低くしたいということを私も事業管理者も考えていて、当院をアピールしてきたつもりでした。その辺が少し効いてきたのではないかと考えたいです。具体的にどういうところで変わったのかというと、一つは「意識」が大きいと思います。</p>
小嶋委員	<p>今年 4 月から消費税が 3% あがり、これに伴って薬剤や医療機器、材料の値段もおそらく上がっていると思いますが、その計算をいれての予算編成ですか。</p>
佐々木業務課長	<p>消費税 3% 増で、当院では 1 億 1,000 万ほどの消費税増となりました。これを見込んだ予算編成を組んでいます。</p>
東委員	<p>部屋の利用率について教えてください。</p>
中居事務局長	<p>25 年度実績については手元に資料がありませんので、24 年度実績でお答えします。</p> <p>利用稼働率は、特別個室 A (9,450 円) が 25.9%、特別個室 B (8,400 円) が 70.8%、個室 A (6,300 円) が 72.5%、個室 B (5,250 円) が 86.7%、別館精神科個室 (2,100 円) が 58.9%、全体の稼働率は 73.9% です。</p>
東委員	<p>私が気になっていることが、一番よく利用しやすい部屋の利用率が一番低いことです。多くの方に入院してもらうための何かしらの努力はされていますか。</p>
中居事務局長	<p>東委員からご指摘があった当時は、1 万 2,000 円、1 万 500 円ほどの使用料の個室があって利用率がなかなか上がらず、料金改正をしました。それによって、当時より利用件数も 2,000 件ほど増えてきています。</p>
東委員	<p>以前、地元の人が利用しやすい料金にしたらどうかと提案し、料金を下げて利用率を上げたと思います。これ以上下げるとは難しいと思うので、一番いい部屋を多くの人に利用していただくために努力するよう要望しておきます。</p>
今泉委員	<p>「医療機器の購入」で、眼を撮影するためのいい機械を買うというお話でしたが、もう買いましたか。</p>
佐々木業務課長	<p>昨日で契約が成立しましたので購入します。</p>
今泉委員	<p>6 月 10 日、私は手術の予約しました。何とか間に合うようにすると言われましたが、心配していました。</p>
竹島会長	<p>次の案件に移ります。</p> <p>「報告 2 平成 25 年度病院事業会計決算見込み」について事務局から説明をお願いいたします。</p>
佐々木業務課長	<p>企業会計の予算が、収益的収支関係、資本的収支関係と二本立てとなっているので、この分類の仕方で説明していきたいと思います。</p> <p>収益的収入全体は 76 億百万円、前年度比較で 5,600 万円の増、このうち医業収</p>

<p>竹島会長</p>	<p>益が67億84百万円、前年度比較で1億28百万円で増えています。収益的支出は82億52百万円、前年度比較で1億72百万円の減、このうち医業費用は77億63百万円、前年度比較で46百万円の減です。差引計()は6億51百万円の赤字、このうち医業収支だけでみると、9億79百万円の赤字です。ただ、収益部門で支出や収入に特別損失や減価償却など、実際に現金を伴わない部分が現に含まれているので、その部分についての減価償却費()が8億9千万ほどあります。</p> <p>から を引くと、現金ベースで収益的状況では2億39百万円の黒になります。内訳として、医業収益部門だけみると、1億33百万円ほどの赤字になります。収益的収支関係(X)と資本的収支関係には医療機械や建設関係、元利償還の元金部分があります。資本的収入は起債関係、一般会計からの出資金が入っているので、その資本的収入と支出の関係、起債関係の元金償還と医療機械分の合計、これらを差し引くと2億2百万ほどの赤字です(Y)。以上より、確かに一般会計からの特別支援もありましたが、実質は病院の努力もあり、現金ベースで37百万円ほどの黒を出すことができました。一般会計繰出金は13億37百万円となります。このうち、基準外の繰出金が5億81百万円あります。</p> <p>ただ今の報告につきまして、ご質問、ご意見がありましたら、ご発言をお願いします。</p>
<p>鳥越委員</p>	<p>現金ベースでの収益的収支で、減価償却費が842百万円、資産減耗費が4百万円、繰延勘定償却が18百万円、過年度修正損19百万円となっています。まず、減価償却費は対応年数など、どのような設定の仕方をしているのか、資産減耗費はどのような資産がどのような減耗なのか、過年度修正損はどのような修正損がでているのか教えてください。</p>
<p>佐々木業務課長</p>	<p>減価償却費には建物の償却や医療機械の償却等があります。種類によって違いますが、建物は39年、医療機械は5~6年、毎年度償却しています。25年度では償却分が8億42百万円ほど発生しています。</p> <p>資産減耗費は現存する資産を除却し、残存部分を減耗しなければならないので、そういうものの減耗費が4百万円出ています。</p> <p>繰延勘定償却は非常に説明が難しく、過去に病院を新築した際、消費税を単年度でできないため、5年間にわたって償却します。それを3条の収益的部門にのせて毎年度5年間にわたってやっていかなければなりません。消費税部分に対応するというごことご理解下さい。</p> <p>過年度修正損は、同じく消費税が絡んで、実際に現金を伴いませんが、経理上そういう形で雑支出に消費税の溢れた部分を計上して評価するという手法になっています。細かい数字はわかりませんが、雑支出に消費税の振替のために入っている調整額で、それは実際に現金を伴いません。</p>
<p>鳥越委員</p>	<p>経理の手法の中で、この科目が一番数字を動かしやすいものなので内容をお聞きしました。資産の対応年数について、利用情報システムを5年経過したので交換したと言っていました。こういった機械の年数が経過して交換するまでには償却を終えているということですよね。</p>

丹野院長 東委員	はい。 大変努力されて収入をあげられていることに関しては感謝申し上げます。ただ、市民の苦情の多くは、予約制にしているながら待ち時間があまりにも長すぎることです。これを解決することによって、患者数も増えると思いますし、多くの方々の診療もできて収入も増えてくるとと思いますが、どう考えていますか。
丹野院長	患者さんの苦情の中で一番多くて常時間かれるのが待ち時間のことです。その予約制ですが、飛び込み患者等もあってどうしても時間がずれる場合があります。少し外来を広げることも大事ですが、今後の医療を考えた時に、掛かりつけ医の先生の協力を得ながら、市民の方々に啓蒙し、掛かりつけ医で対応できることはできるだけ掛かりつけ医をお願いしていきたいと思います。待ち時間を少なくするサービスは継続させ、あと待っている間のちょっとした声掛けをすることでご不満を解消してもらえることもあるので、そのような細かな対応を今後看護局等々と相談しながらますます充実させたいと思っています。
竹島会長	以上で、「報告 2 平成 25 年度病院事業会計決算見込み」について議事を終了します。 その他委員のほうから、ご意見、ご質問ありましたらご発言願います。
野月委員 松野事業管理者	産婦人科診療体制についてどういう方向になっていますか。 単的にいって変わっていません。進展しているとは言えません。基本的にパイプを作りながら進めていきますが、今のところ、マンパワーとして出せる状況ではないです。ただ、見通しが全くないわけではなく、頻繁に伺って交渉は続けていきます。
小村委員 中居事務局長	私のほうからドクターヘリの現状をお聞きしたいです。 ドクターヘリに関しては消防署のほうになるので、病院ではドクターヘリの回数はわかりません。
小村委員	なぜ、このようなことをお聞きしたかと言うと、もし、当市で B1 グランプリが開催された場合、ドクターヘリは非常に活躍すると思いますので、その対応についてお聞きしました。
小又看護局長	もう一つ、現時点の看護師さんの労働条件を教えてください。 勤務時間は 7 時間 45 分、夜勤は一人月 72 時間以内、回数は 8、9 回で抑えています。時間外は目標を月 4 時間以内としています。
小村委員	今、国で自治体調査した資料がありまして、医療業務が増えたと感じる人が 62.7%あり、当院ではどうなのかと思いました。それからある看護師さんから、医師よりも看護師さんの労働量が若干あるのではないかというご意見がありました。あまりご負担をかけるのもどうなのかなと思いました。
竹島会長	私のほうから一つお聞きします。 先ほど、初期研修を終えた研修医がそのまま当病院に残ることになり、これは当病院が地域医療機関として魅力ある病院であることが証明されたのではないかと思います。一方で、初期研修医が 1 名しか確保できませんでしたが、この初期研修医の確保に向けた今後の取り組みについて何かありますか。

松野事業管理者	<p>初期研修医の確保には院長が積極的に取り組んでいます。</p> <p>後期研修に4人全員残った理由を皆さんは疑問に思っていると思いますが、理由の一つに職場環境、選考をするにあたっての指導医、そのスタッフに魅力があるからだと思います。また、丹野院長が当院に来たのがちょうど2年前で今回研修を終えた4人と同じ時期です。そのこともあって、盛んに飲み会をしたり、深い関係を築いていったことが大きいと思います。院内の職員のコミュニケーションが大変よくなってきていると言えます。</p>
丹野院長	<p>昨年は6名募集で6名全員きました。今年度は残念ながら、6人の枠に2人来る予定でしたが、一人国家試験受かりませんでした。大きく変えた点は、今後、県内の地域枠の先生方が増えてきて、青森県内の初期研修医療を受ける側の病院間の給料の差があまりにも大きいとの意見があり、給料を下げたことです。まだまだ当院では初期研修医確保に対するアピール度や魅力がまだ整っていないと思います。ですから、病院機能としての魅力、色々な学会の認定施設、それを病院としてとっていきたいと思います。具体的にいうと、日本内科学会の教育関連施設、日本プライマリーケア連合学会等を指導するための認定施設になっていくことです。病院機能の充実、幅広い初期研修ができる環境を作っていきたいです。例えば、新しく北海道の病院と連携して救急の漢方を学べる病院とコンタクトをとって、そちらにもいけるルートを作ります。あとは、積極的に病院の宣伝をし、来年度はもっと多くの研修医にきてもらえるように努力していきたいと思います。</p>
竹島会長	<p>それから6年生の学生が実習にくる機会が増えています。今年度も5、6人、4週間くらい当院に勉強にくる学生がいます。その学生に当院の良さをアピールして、来年度は初期研修医をしっかりと確保したいと思います。</p> <p>その他ご意見がないようですので、これをもって報告事項の審議を終了させていただきます。</p> <p>以上をもちまして、平成26年度第1回目の経営審議会を終了させていただきます。</p> <p>皆様、ご協力ありがとうございました。</p>

